

ご説明参考資料

平成18年4月7日(金)

日 本 郵 政 公 社

参考 1 郵便事業の現状と将来戦略

■郵便物数の減少傾向の中において、郵便事業の赤字から黒字構造への転換が必要。健全経営の基盤を整備。

■ユニバーサルサービスの確保には、成長分野への注力が不可欠

構造的に郵便物数の減少が加速化し、収益も減少の傾向

郵便物数
2004年度 ▲2.3%
2003年度 ▲2.3%

原因：●IT化
●民間との競争激化
●企業の通信費節約

ボリューム減少



単位コストUP



料金値上げ



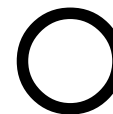
クリームスキミング促進



事業破綻



ユニバーサルサービスの破綻



成長分野に注力

- 国内物流（ゆうパック、小型物品物流）
- 国際物流（エクスプレス、ロジスティクス）
- 企業向郵便（DM等）

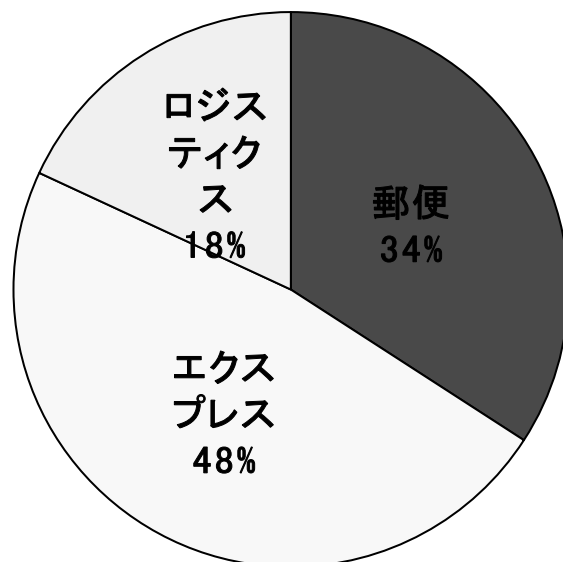
ユニバーサルサービスの維持

参考2 ドイツポスト、TNT、日本郵政公社の事業別収入構成

■世界の郵政事業体(ドイツポスト、TNT)は、業務の多様化・国際展開を進め、収益拡大に成功

Deutsche Post  World Net
MAIL EXPRESS LOGISTICS FINANCE

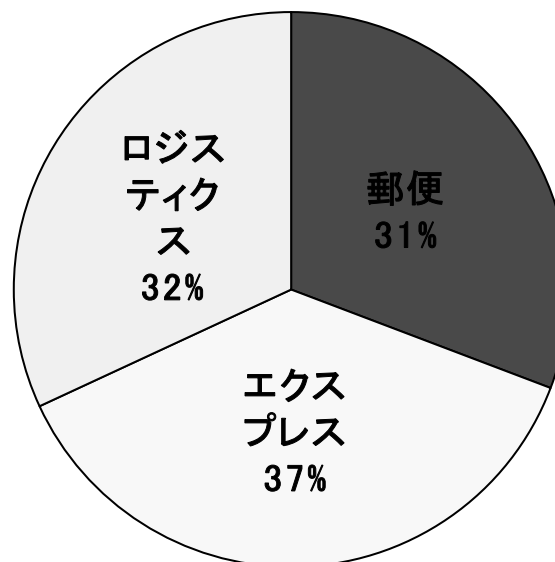
(2004.1~12)



	売上高	利益率
郵便	1兆8000億円	16.4%
エクスプレス	2兆5000億円	2.1%
ロジスティクス	9500億円	4.1%
計	5兆2500億円	7.7%



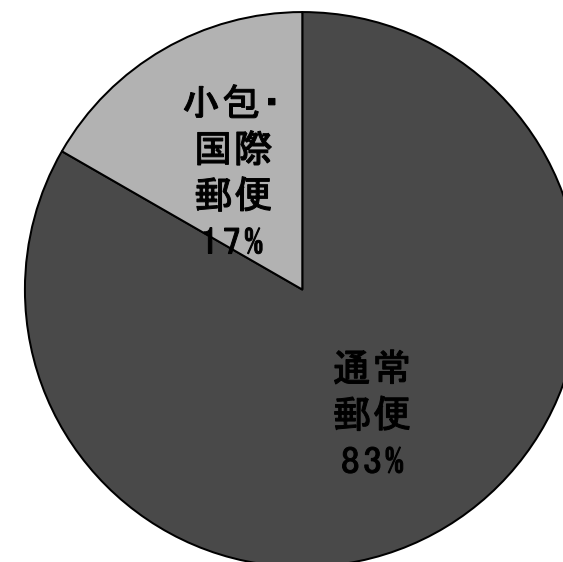
(2004.1~12)



	売上高	利益率
郵便	5500億円	22.2%
エクスプレス	6600億円	7.9%
ロジスティクス	5700億円	3.7%
計	1兆7700億円	11.0%

 日本郵政公社
JAPAN POST

(2004.4~2005.3)

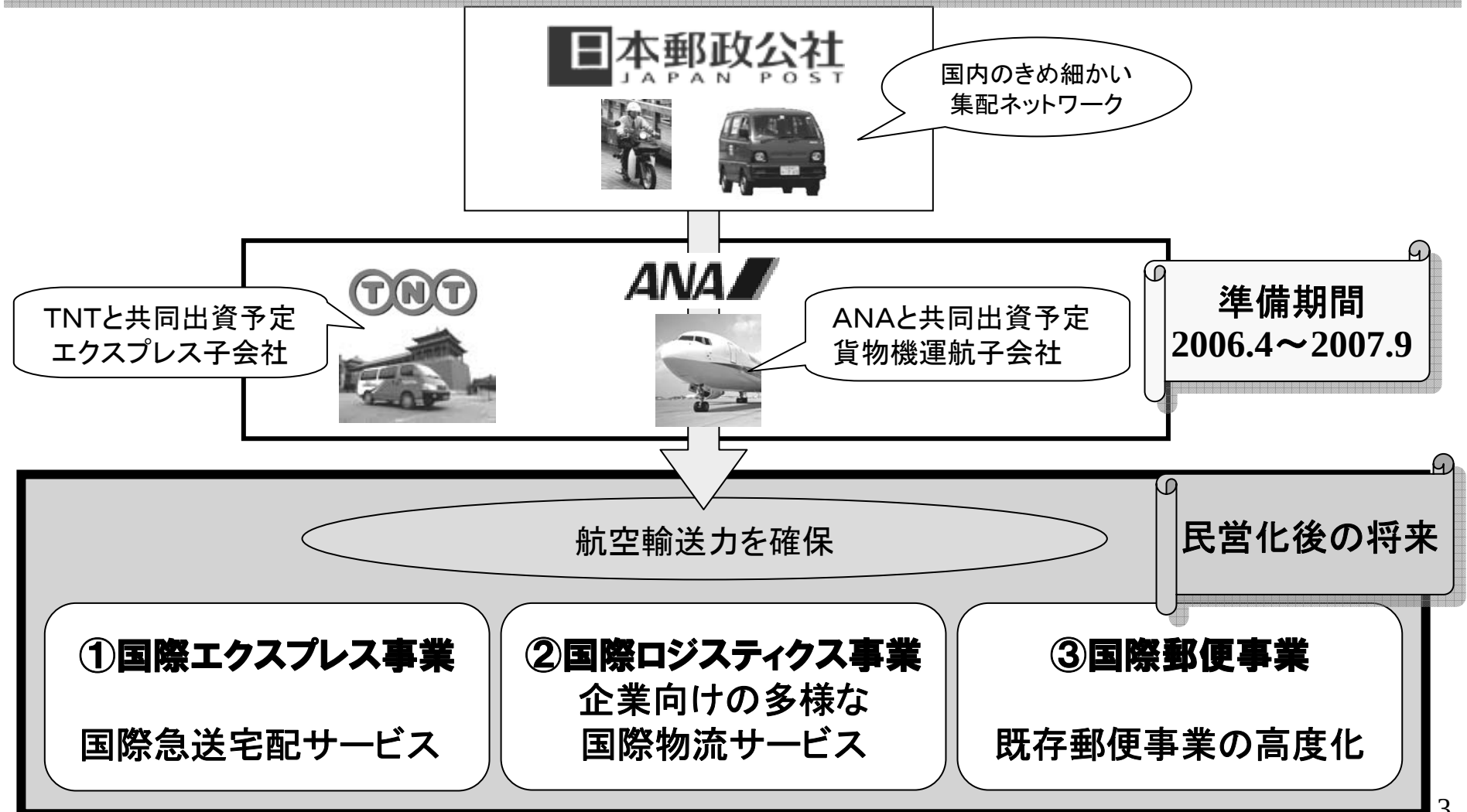


	売上高
通常郵便	1兆5000億円
小包・国際郵便	3000億円
計	1兆8000億円

※2005.12 英Excel社(2004売上約1.2兆円)を買収

参考 3 日本郵政公社の国際物流事業の展開

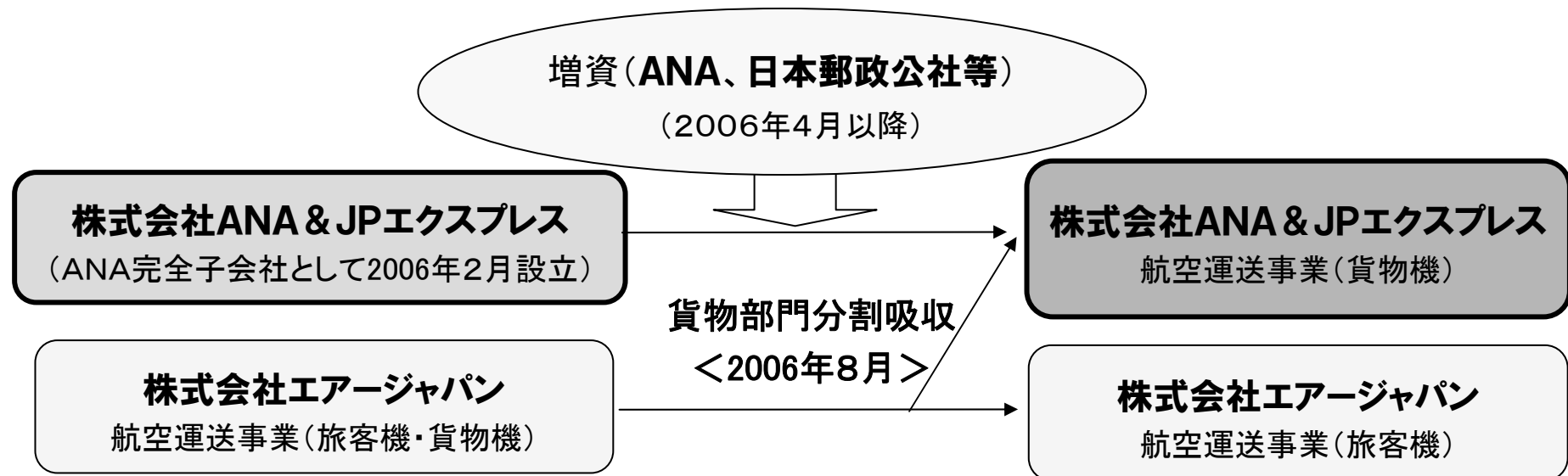
- 将来的に、①国際エクスプレス事業、②国際ロジスティクス事業、③国際郵便事業を有機的に結合させた、航空輸送力を有する「総合国際物流事業者」を志向
- 準備期においては、ANAやTNTとの共同出資会社により事業展開を企図



参考 4 株式会社ANA & JPエクスプレスへの出資（概要）

全日空の完全子会社として2006年2月に設立された株式会社ANA & JPエクスプレスの増資に際し日本郵政公社も共同出資（出資時期：総務省認可後速やかに、出資比率：33.3%）。

ANA & JPエクスプレスは、2006年8月に全日空の完全子会社である株式会社エアー日本の貨物部門を吸収分割により承継することにより、国際貨物航空運送事業を実施予定。



新会社の概要(2006年2月1日設立)

- 会社名 株式会社ANA & JPエクスプレス
- 資本金 3,000万円（2006年4月以降第三者割当増資予定）
- 株主 全日本空輸株式会社 100%
（増資後 全日空51.7% 公社33.3% 日本通運10% 商船三井5%）
- 業務内容 貨物航空運送事業、航空運送代理店等